

子どもが安心して学べる学校

いじめを許さない学校

思いやり溢れる学校

基本方針

- *生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、いじめのない学校をめざす。
- *いじめは、絶対に許されない行為であり、人権侵害でもあること、また、他の生徒に対して行われるいじめを認識しながら、それを傍観するようなことはあってはならないこと等の指導を徹底する。
- *いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうるという認識の下、学校として日常的に未然防止に取組、いじめを把握した場合には、速やかに解決をする。
- *いじめ防止等の対策として、未然防止、早期発見、早期対応を基本として、学校全体で組織的に取り組む。さらに、学校、家庭、地域、その他の関係者が基本的な考えを共有し、いじめ問題の克服に向けて、連携・協力して取り組む。

【未然防止】

- * 道徳教育の充実（多様な価値観に触れる）
- * 人間関係づくりプログラムによる相互理解
- * 学校・学年・学級でのピア・サポート活動の充実
- * 教育活動全般における「発達支持的生徒指導」の推進
- * いじめに対して家庭で心がける五ヶ条の推進
 1. 子どもにもっと目を向けよう。
 2. 思いやりの心を育てよう。
 3. 自分を大切にできる心育てよう。
 4. 明るく素敵な家庭を作ろう。
 5. いじめを許さない環境をつくろう。
- 昨年度の取り組みの評価 —
 - 人間関係作りプログラムによる自己理解、他者理解を行った。
 - 教職員による積極的なあいさつを励行し、生徒との関係性の構築に努めた。

【早期発見】

- * いじめアンケートや学校生活アンケートの実施後、生徒の実態把握に努め、寄り添い支える指導に取り組む
- * 欠席者への家庭訪問・電話連絡を実施する
- * 授業観察や生活ノートの点検、年2回の教育相談等を通じた生徒理解に努める
- * SC・SSW・学校支援相談員等と連携する
 - 昨年度の取り組みの評価 —
 - 生徒の些細な表われでも情報共有を学年間や生徒指導主事、管理職と密に行った。
 - いじめアンケートや学校生活アンケートを実施し、いじめや悩みの早期発見につなげることができた。
 - 生活ノートを活用しながら、生徒の思いや悩みを聞き取り生徒指導へと繋げた。

【早期対応】

- * 迅速な聞き取り・情報収集（一報を迅速に回す）
- * 迅速な家庭連絡・被害者の保護
- * 迅速な加害者指導及び継続的な成長支援を行う
- * 迅速な全体指導・全体説明
- * 被害者の立場・加害者の立場にたった対応
- * 積極的に保護者に報告すると共に、保護者への対応は、複数教員で実施
- * 関係生徒の学習保障・生徒指導等に関する事後指導を丁寧に行う
 - 昨年度の取り組みの評価 —
 - 問題が起きた際には、迅速に校内対策委員会を立ち上げ情報共有と指導体制を整えた。

【PTAや地域との連携】

- * 家庭啓発活動の充実（子どもに目を向けさせる）
- * PTA 育成部活動の実施
- * 青少年健全育成会（学習会）実施
- * 朝の挨拶運動の実施

【児童生徒が自ら考える場・機会の設定】

- * 道徳の時間に「命の大切さ」について考える教材を話し合う等、いじめの未然防止に資する活動を推進
- * 生徒集会・ピア・サポート活動の充実
- * 自己有用感をもてるような環境づくり
- * 「絆づくり」「居場所づくり」を意識した授業・行事の推進

【校内いじめ対策委員会】

委員
校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、PTA 会長

【職員研修・指導体制】

- * 学校がいじめを見逃すことなく、組織として情報を共有し、確実に判断・対応ができるよう、SC や SSW 等を含めたチームで、対応できる体制を整備する。
- * 緊急度・重要度のある事案については、ケースカンファレンスで対応方針を決定するなどルールを明確にする。
- * 職員研修や指導体制を充実させるために、学校・学年体制で生徒指導・生徒理解研修を実施する。
- 【取組等の点検】
- * 学校・学年体制で情報交換・情報共有を心がける。（特に、【一報ファイル】による早期共有を心がける）
- * 学校生活アンケートの結果を全職員で共有し、全職員で支援できるようにする。

【関係機関との連携】

- * 警察（スクールサポーター）
- * ネットパトロール
- * サポートセンター、児童相談所
- * 藤枝市教育委員会教育政策課、生徒指導担当、学校支援相談員、学校評議員、地域の有識者 等